

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

1 総 評

公立大学法人福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質をもった優秀な職業人を育成することを最も重要な使命としている。

今年度の業務実績の評価は、公立大学法人に移行して初年度の評価であり、人材育成のための教育を中心とした今後の取り組みを、着実に実施する下地づくりがなされているかということをも視点として評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目7項目（教育、研究、社会貢献、業務運営、財務、評価、情報公開）について「順調に進んでいる」又は「おおむね順調に進んでいる」と評定、年度計画で定めた事業の実施や、実施に向けての体制構築がおおむねなされていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成18年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としてはおおむね順調に進捗していると認められるが、これらの取り組みは、まだ緒に就いたばかりであり、今後の着実な業務の推進とその成果に期待する。

2 業務の実施状況

教育、研究、社会貢献に関する業務の実施状況については、おおむね順調に進捗している。

福岡県立大学の特色は、両学部連携、地域連携による業務の展開にあるが、法人化初年度において、附属研究所における連携プロジェクトや福岡県立大学・田川地域連携推進協議会による産学官連携推進など、今後の実施に向けた下地づくりが着実に進められたことを評価する。また、キャリアサポートセンターの設置、図書館の利用時間の拡大、地域と連携した朝食販売など、学生支援に積極的に取り組んでいる。

今後は、教育面での特色づくりの一層の推進を図られたい。

3 財務状況

財務の状況については、自己収入の増加の取り組みにおいて、一部計画の遅れが認められるものの、全体としては、おおむね順調に進捗している。

財務運営にあたっては、今後ともより一層の経営努力に努めるとともに、適切な予算管理と、戦略的・効果的な予算配分を推進されたい。

4 法人のマネジメント

法人運営については、学内理事による四役会、部局長会議の設置によるトップマネジメント体制の構築に努めている。また、全教職員を対象とした大学改革セミナーを開催し、意識改革に取り組んでいる。今後は、理事長のリーダーシップを支える人材の育成を進めるとともに、法人運営の意思決定システムについて、教職員へ一層の浸透を図ることが必要である。

また、法人の健全な運営のため、適切な自己点検・評価と積極的な情報公開に向けたより一層の取り組みを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価 3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

（1）教養教育の充実

・教養科目・基礎科目カリキュラムの見直し、全学共通教養演習テキストの作成等、教養教育の充実・改善に取り組んでいる。

（2）専門教育の充実

・両学部の連携による他の専門領域を学べる教育プログラムの導入に向けた準備が遅れているが、福岡県立大学の専門教育の特色となる部分であり、今後一層の努力を期待する。

（3）教員の教育能力の向上

・両学部が一体となってFD（※）に積極的に取り組んでいる。
・学生による授業評価については、どのような人材を育成するかというところも踏まえ、評価方法や評価結果の活用等について、更なる工夫・改善が必要である。

※FD（ファカルティ・ディベロップメント）

教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称。

（4）学生の確保

・広報活動について、オープンキャンパス、入試説明会、出前講義、高校訪問等、数値目標を上回って実施し、意欲的に取り組んでいる。
・全国的な志願者の変化をみると、受験生の動向は実学志向となっており、社会福祉

系の落ち込みが目立ち、課題となっている。

福岡県立大学が学科見直しのモデルケースとなるような特色ある取り組みを期待する。

(5) 成績評価

・成績評価基準の見直し、シラバスの改善、GPA制度（※）導入の検討等、学生の質の向上に努めている。

※GPA制度（GPA＝グレード・ポイント・アベレージ）

授業科目ごとの成績評価を5段階(A, B, C, D, E)で評価し、それぞれに対して、4, 3, 2, 1, 0のグレード・ポイントを付与し、この単位あたり平均を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度。

(6) 学生への支援

・地域と連携した朝食販売や稲作体験、図書館の利用時間拡大など、学生支援に積極的に取り組んでいる。

・キャリアサポートセンターの開設等により、キャリア形成支援及び就職支援体制が強化されたことは評価できるが、就職先アンケートが未実施であり、また、会社訪問件数も数値目標を下回っている。今後、事業推進への一層の努力を期待する。

・福岡県立大学はまだ歴史が浅い大学であり、今後同窓会との連携を深めるなど、学生支援体制を充実していくことが期待される。

2 研究

評価 4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

・附属研究所において、両学部の連携（生涯福祉研究センター（人間社会学部）、ヘルスプロモーション実践研究センター（看護学部））による研究プロジェクト等に積極的に取り組み、目標を上回る実績をあげている。

・産学官連携については、大学主体で「福岡県立大学・田川地域連携推進協議会」を立ち上げるなど、附属研究所を核とした連携体制の構築に取り組み、受託研究件数は目標を上回る実績をあげている。また、田川地域の知的インフラ整備を図るため知的財産セミナーを開催するなど、田川地域の企業や行政との連携推進に取り組んでいる。

3 社会貢献

評価 3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・知的資源を活用した健康教室や相談事業、公開講座等に積極的に取り組んでおり、特に福祉・教育・健康に関する相談事業については、相談活動体制を整備のうえ前倒しで実施するなど積極的に取り組んでいる。

- ・中国、韓国の大学との学術研究や学生の交流に取り組み、従来からの中国南京師範大学に加え、韓国大邱韓医大学校と交流協定を締結したことは評価する。しかし、一方で留学生の受入対策が遅れており、総合的な視野に立ち事業を進めることが必要である。

- ・附属研究所生涯福祉研究センターにおいて、各種の研究会・セミナー等を開催するなど、地域支援に積極的に取り組んでいる。

4 業務運営

評価 3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・運営体制や安全管理体制の整備、任期制の推進、19年度の個人業績評価実施に向けた準備等を着実に実施している。

- ・全教職員を対象とした大学改革セミナーを年間7回開催し、教職員の意識改革へ積極的に取り組んでいる。

- ・看護学部の教育研究組織の見直しに向けた検討が遅れている。

5 財務

評価 3 : 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおり進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・光熱水費や通信費の節減の徹底を通して経費抑制に努め、数値目標を上回る実績をあげている。
- ・学生納付金の未納額について、過年度分の回収率が目標を下回っており、回収に向けたより一層の取り組みを期待する。

6 評価

評価 4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・平成19年度の自己点検・評価の実施及び個人業績評価の給与への反映に向けた検討等に取り組んでいる。

7 情報公開

評価 4 : 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

平成18年度の業務実績については、年度計画を着実に実施し目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・ホームページの改訂、情報管理体制の整備、個人情報保護規程の制定等、情報公開の推進に努めている。